

吉田英嗣教授のご逝去を悼む

吉田英嗣教授は2022年1月15日に42歳の若さで逝去された。肺がんおよび転移性脳腫瘍との5年にわたる闘病の末、旅立たれた。

お通夜は1月18日に、告別式は19日に練馬区の公益社練馬会館で執り行われ、ご親族をはじめ教え子や研究者・大学関係者によりお別れを悼んだ。2021年春学期には直接対面形式でご指導くださり、同年秋学期においてもオンデマンド配信で地形学を担当されていた最中であった。

先生は1979年に千葉県でお生まれになり、1998年には埼玉県立浦和高校を卒業、東京大学では入学時の文科から理学部へ進まれ2002年に卒業された。大学院は同大学の新領域創成科学研究科を2007年に修了され、在学中は日本学術振興会特別研究員(DC1)に採用された。その後は中央大学の助教を、2010年からは関東学院大学の専任講師をそれぞれ務められた。2012年に専任講師として明治大学へ着任したのち、2015年から准教授、2021年には専任教授に昇進された。

先生のご専門は自然地理学のなかでも地形学で、火山活動がもたらす平野の地形変化を中心に破竹の勢いで業績を蓄積されてきた。代表的なご研究は成層火山の山体崩壊に起因する地形の形成過程を解明したもので、日本地形学連合から優秀論文として2013年の研究奨励賞を授与された。これは磐梯火山で1888年に発生した山体崩壊の土砂量を流れ山の分布から推定したほか、浅間火山周辺に存在する「泥石流堆積物」を粒度分析に基づき山体崩壊由来のものと結論づけた。先生はこれらの他に河川地形や変動地形の研究でも成果をあげられ、地形学の幅広い分野で八面六臂のご活躍をなされた。

先生のご指導は厳しくも寄り添うもので、現地でもお力添えを賜ったゼミ研究や卒業研

究調査の一部は最終的に雑誌論文として結実した。ゼミの卒業論文発表会・懇親会には歴代の卒業生までもが詰めかけ毎年盛況であった。また地理学専攻の学生が多数所属する地理学研究部の部長をお引き受けくださり、たいへんお世話になった。

学会活動においては、日本地理学会の編集専門委員や日本地形学連合の会計監査を務められた。本学の駿河台キャンパスで開催された日本地形学連合2016年秋季大会では運営の中心的な役割を担われた。

大病を患われてからも執筆活動を続けられ、新たに書籍を上梓された。高等学校で地理や地学を履修していない文系学部生が自然地理を学ぶ際の入門書として、『はじめての自然地理学』（2017年、古今書院）を単著で執筆された。同書は自然地理学概論の講義に用いられ、学会誌上の書評で取りあげられた。2019年には増補した「第二版」も刊行されている。また『奇跡の大自然図鑑』（2020年、東京書籍）の日本語版を監修された。

11月6日に北海道大学で開催された日本地形学連合2022年秋季大会では、先生を追悼する特別セッション「山から海への地形的コネクティビティー自然地理学的視点から」が開催された。オンライン併用の会にもかかわらず、全国から多くの研究者が現地会場に参集し在りし日を偲んだ。多難なフィールド調査の現場にあっても笑顔で軽快に作業を進めるお姿は、今もなお記憶に深く刻まれている。心より哀悼の意を表する。

(高波紳太郎)